

国立医薬品食品衛生研究所報告への投稿について

投 稿 規 定

1. **投稿資格**：国立医薬品食品衛生研究所所員とする（共著者はこの限りでない）。
2. **内 容**：原稿は、特論、総説、研究論文、ノート、資料、ステートメントとする。そのほか業務報告、誌上発表、単行本、行政報告、学会発表、レギュラトリーサイエンス関連会議報告などを収載する。
 - 特 論**：国立医薬品食品衛生研究所の研究業務に関連する主題について、ある特定の視点から系統的に整理・論述したもので、編集委員会が執筆を依頼する。
 - 総 説**：数年以上にわたって行われた著者自身の研究や調査を中心にして、特定の主題について包括的・系統的に総括したもので、投稿により受理する。
 - 研究論文**：新知見を含むか、あるいは独創的な内容の研究成果をまとめたもので、投稿により受理する。
 - ノ ー ト**：断片的ではあるが、新知見を含むか、あるいは独創的な内容の研究成果をまとめたもので、投稿により受理する。
 - 研究に関する資料**：試験、製造又は調査などで、記録しておく必要のあるもので、投稿により受理する。
 - 標準品に関する資料**：標準品に関する試験、製造又は調査などで、記録しておく必要のあるもので、投稿により受理する。
 - ステートメント**：レギュラトリー関連学会などで発表した内容の報告で、投稿により受理する。
 - 業務報告**：所長、各部長（支所も含む）及び各薬用植物栽培試験場の長が過去1年間（前年度）の業務成績、研究業績をまとめた報告。
 - 誌上発表**：国立医薬品食品衛生研究所報告以外の専門誌に発表したものの報告。
 - 単 行 本**：単独又は共同で執筆し、刊行されたものの報告。
 - 行政報告**：行政の依頼により実施し、報告書を提出したものの報告。
 - 学会発表**：学会で講演したりポスター発表したものの報告。
 - レギュラトリーサイエンス関連会議報告**：レギュラトリー関連会議内容の報告。
3. **用紙及び枚数の制限**：原則としてA4用紙（日本語；26字×24行、英語；55字×ダブルスペース24行）を用いる。原稿の長さは表、図、写真を含め刷り上がりページ数で下記の規定に従う（日本語及び英語の本文は、刷り上り1ページはA4用紙約4枚に相当する。また、表、図、写真は、約2枚が刷り上り1ページに相当する）。
 - 特 論**：原稿を依頼するとき別に定める。
 - 総 説**：刷り上がり15ページ以内。
 - 研究論文**：刷り上がり8ページ以内。
 - ノート及び資料**：刷り上がり5ページ以内。
 - ステートメント**：刷り上がり2ページ以内。
 - 業務報告**：各部及び各薬用植物栽培試験場について刷り上がり2ページ以内。
 - 誌上発表**：一題目について要約部分が26字×20行以内。
4. **原稿の提出**：原稿はワードプロセッサで作成する。特論、総説、研究論文、ノート、資料、ステートメントでは、表紙（第1頁とする）、英文要旨及びキーワード、本文、文献、図の表題と説明、表の表題と説明、図、表、英文要旨の和訳（参考）の順に通し頁番号を付け、左上をひもなどで綴じて提出する。表紙には、論文タイトル、所属、著者名に加えて、右上部に該当する分類（特論、総説、研究論文、ノート、研究に関する資料、標準品に関する資料、ステートメントなど）を、また右上部に総頁数及び図表のそれぞれの枚数を記入する。

提出部数は、特論、総説、研究論文については3部（オリジナル原稿1部及びコピー2部）、また、ノート、資料、ステートメントについては2部（オリジナル原稿1部及びコピー1部）とする。業務報告などの報告類については、オリジナル原稿1部とする。

また、原稿とは別に、原稿の内容（表紙、英文要旨、本文、文献、図の表題と説明、表の表題と説明など）の入ったフロッピーを添付する。フロッピーのフォーマットなどについては、その年度の

「原稿募集について」に従う。

原稿とフロッピーには所長宛の報告書を添えて、定められた原稿締め切り期日までに編集委員（図書係）宛に提出する。

5. **原稿の審査**：原稿の採否及び分類は、編集委員会が選んだ審査員（特論，総説，研究論文については2名，ノート，研究に関する資料，標準品に関する資料については1名）の意見に基づき編集委員会が決定する。また，必要ならば字句や表現の訂正，図表の書き直しなどを求める。

執 筆 規 定

- 1. 文体，用語**：常用漢字を用い，現代かなづかい，新おくりがなの，口語文とし，簡潔で理解しやすい表現にする。全文を英語で書いてもよい。ただし，英文表現が不明瞭な場合には受理しないこともある。原稿の語句の統一をはかるため，おくりがな，かなで書くもの，文字の書き換え並びに述語などについては，原則として文部省用字用語例及び文部省公用文送りがな用例集に従う。[参考：国立医薬品食品衛生研究所報告記載の手引き（用語例）]
なお，学術用語については文部省学術用語集（化学編，植物学編，動物学編，数学編及び物理学編など）に従うことを原則とし，用語集にないものについては学会の慣例に従う。
- 2. 物質名，化学名**：文中では物質はその名称を漢字，カタカナあるいは英語（アルファベット）で記し，化学式は用いない。例えば塩酸と書き，HClとしない。英語で書く場合，文中では原則として小文字で始める。
- 3. 単位，記号，略号，略記**：単位は原則として国際単位系（SI）を用いる。
[参考：国立医薬品食品衛生研究所報告記載の手引き（単位，記号，略号）]
数字と単位記号の間は，必ず半角1文字あける。
また，物質名あるいは分析法などを略記するときは，和文，英文とも最初は正式な名称とともに示す。例えば，イソニコチン酸（INA），示差熱分析法ーガスクロマトグラフィー（DTA-GC）と書き，（以下INAと略す）などとしなす。
- 4. 句読点**：，．を用い，、。としない。
- 5. 数字**：算用数字（アラビア数字）を用いる。千の単位にコンマを付ける。また，必要に応じてローマ数字を用いることができ，慣用語などについては和数字を用いる。
（例：一般，二酸化イオウ）
- 6. 繰り返し符号**：「々」，「ゝ」，「ゞ」は，原則として用いない。ただし，慣用語は用いても差し支えない。（例：徐々，各々）
- 7. 字体の指定**：文字の下に赤で次のように記す。
ゴシック体 ~~~~~ 例：見出しなど 試薬
イタリック体 _____ 例：学名など Papaver somniferum L.
スモールキャピタル ===== 例：L-ascorbic acid
- 8. 特論，総説，研究論文，ノート，資料，ステートメントの記載要領**：
 - 8.1 記載順序**：8.2～8.8の順に書く。
 - 8.2 題名，著者名**：次の例に従い，表紙（用紙1枚全部）をこれに当てる。なお，所外の共著者の所属は著者名の右に*印（複数のときは*1，*2…）を記して脚注とする。

例：医薬品の確認試験法に関する研究（第2報）

鎮痛剤のクロマトグラフィー
用賀 衛[#]・世田一郎^{*1}・東京子^{*2}
Studies on the Identification of Drugs II
Chromatographic Methods for the Analgesics
Mamoru Yoga[#], Ichiro Seta^{*1} and Kyoko Azuma^{*2}

また，著者の中の一人を，連絡者（Contact person）に指定し，著者名の右肩に#印を記して脚注とする。

脚注例：# To whom correspondence should be addressed:

Mamoru Yoga; Kamiyoga 1-18-1, Setagaya, Tokyo

158-8501, Japan; Tel: 03-3700-1141 ext.200;

Fax: 03-3700-6950; E-mail: mamoru@nihs.go.jp

8.3 英文要旨：論文の内容を400 words程度で簡潔にまとめる。なお、参考のため和訳を原稿の最後に別紙として付ける。

8.4 キーワード：キーワードは英語（必要に応じ、ラテン名）とし、選定数は5個以内とする。

英文要旨のあと2行あけて"Keywords"の項目を付ける。固有名詞、略語を除き、小文字で記す。各キーワードはカンマで区切り、続けて記載する。単語、句、略語のいずれを用いてもよい。特殊な場合（例：tablets）を除き、単数形とする。また、冠詞はつけない。

8.5 本文：新しいページから書き始める。本文のスタイルは特に規定しないが、内容の重複を避ける。図、又は表がある場合、それらの挿入位置を本文の左側の空欄に明記する。

8.6 引用文献：本文の引用箇所の右肩に1), 2,3), 4-6) のように記し、本文末尾に文献として引用順に出来る限り英文で記載する。なお、和文雑誌・単行本の場合は、ローマ字書きで記載する（ローマ字書きにすると意味が分かりづらい場合には、日本語で記載する）。雑誌名はChemical Abstracts及び日本化学総覧の略記法による。雑誌名はイタリック体（日本語記載の場合を除く）、巻数はゴシック体で表し、単行本は書名を省略せず、編者名や出版地も記載する。

例：

1) Ito, A., Suzuki, B., Tanaka, C. and Kato, D.: *J. Health Sci. Review*, **7**, 1234-1245 (1997)

2) a) Yamada, E. and Takahashi, F.: *Health Sci. Lett.*, **8**, 2345-2356 (1996); b) Saito, G., Kimura, H. and Inoue, I.: *Health Science Bull.*, **123**, 3456-67 (1995); c) Ogawa, J.: *ibid.*, **124**, 12-25 (1996)

3) House, J. K.: "Recent Health Science," 2nd ed., eds. by Morrison, L. and Benjamin, M, Eiken Press Inc., Tokyo, pp.123-234 (1997)

4) Eiken, T. and Kousei, K.: *Eiken Zasshi*, **234** 456-467 (1998)

8.7 図：図 (Fig.) は提出された原稿を70%縮小して、そのまま版下に用いるので、本文とは別に各々一つずつをA4用紙の上に黒で鮮明に作成する。図の作成に際しては刷り上がり一段（幅84 mm）か二段（幅175 mm）かを考慮し、刷り上がり一段の場合には原図幅120 mm、二段の場合には原図幅250 mmに収まるようにする。図には通し番号を付ける (Fig.1., Fig.2.,...). 図番号、表題、説明をまとめて別のA4用紙に、原則として英語で書く（表題は大文字ではじめ最後に「.」を付けない。また、説明は理解できるよう詳細に記載する）。

例：Fig.1. Influence of enzyme concentration on reductive suger production

図中の文章は、原則として英語で書き、明朝タイプの書体（70%縮小されたときにも読みやすい大きさの文字）を使用する。図に写真（カラー写真可）を用いる場合には、鮮明なものを使用する。用紙の裏には、論文のタイトル、著者名、図番号及び刷り上がり段数（一段又は二段）を黒鉛筆で記入する。また、本文の左側の空欄に図の挿入位置を記入する。

8.8 表：表 (Table) は、本文とは別に各々一つずつをA4用紙の上に作成する。表刷り上がり一段（幅84 mm）か二段（幅175 mm）かを考慮する。表には通し番号を付ける (Table 1., Table 2.,...). 表番号、表題、説明をまとめて別のA4用紙に、原則として英語で書く（表題は大文字ではじめ最後に「.」を付けない。また、説明は理解できるよう詳細に記載する）。

例：Table 1. Classical transgenic mice and carcinogenicity

表中の文章は、原則として英語で書き、表中の項目に関する注は項目の右肩に^{a)}, ^{b)}, ...の様に記して示す。

表は、図と同じように活字の版組をしないで提出原稿をそのまま掲載することも可能である。その場合には、明朝タイプの書体（70%縮小されたときにも読みやすい大きさの文字）を用い、刷り上がり一段の場合には原表幅120 mm、二段の場合には原表幅250 mmに収まるように作成し、鮮明に書き出したものを提出する。表の中に構造式や数式が含まれていたり表の構成が複雑な場合には、そのまま掲載できるような原稿が提出されるのが好ましい。

用紙の裏には、論文のタイトル、著者名及び刷り上がり段数（一段又は二段）を黒鉛筆で記入する（活字の版組をしないでそのまま掲載されることを希望する場合には、その旨も書き加える）。また、本文の左側の空欄に表の挿入位置を記入する。

9. ステートメントの執筆上の注意：投稿内容が、レギュラトリーサイエンス関連学会などで既に発表したものである場合には、脚注に例として「本ステートメントは、日本薬学会第120回レギュラトリーサイエンス討論会（2000.3, 岐阜）にて発表した内容をまとめたものである」との説明を加える。
10. 誌上发表などの記載要領：誌上发表，単行本，行政報告，学会発表については，別に定める記載要領及び例示に従う。

校 正

初校は著者が行う。人名，化学名，数値，文献などは特に綿密に校正する。内容の追加，行数の増加は認めない。

平成14年5月1日

国立医薬品食品衛生研究所図書委員会

国立医薬品食品衛生研究所報告記載の手引き(用語例)

注:送りがなについてアンダーラインは注意して送るもの, □ 印は送らないもの.

* 印は特定のものを指すときは漢字でよいもの.

分類	用 語	使 う 字	使わ ^{ない} 字 備考	分類	用 語	使 う 字	使わ ^{ない} 字 備考	
ア	あかるい	明るい	明い	カ	おそらく	恐らく	恐れ, 畏れ おだやかに 落とし おのおの 自ら おもな 凡そ 終る	
	あきらかに	明らかに	明かに		おそれ	おそれ		
	あげる	上げる	上る		おだやかに	穏やかに		
	あたためる	→加温する			おとし	落とし		
	あたる	当たる	当る		おのおの	各々		
	あたらしい	新しい	新 <small>□</small> しい		おのずから	おのずから		
	あてる	当てる	当る		おびる	帯びる		
	あつかう	扱う	扱 <small>□</small> かう		おもな	主な		
	あつめる	集める	集る		およそ	およそ		
	あらかじめ	あらかじめ	予め		および	及び		
	あらたに	新たに	新 <small>□</small> たに		おわる	終わる		
	あらためる	改める						
	あらわす	表(現)す	表(現)わす 表→表面に出し 示す. 著わす 現→かくさずに 示す		かえす	返す		返 <small>□</small> す
	あらゆる	あらゆる	全る		かえって	かえって		却て
ある	ある	在る, 有る	かかわらず	かかわらず	拘らず			
あるいは	あるいは	或は	かける	欠ける	欠る			
あわ	あわ	泡	かさねる	重ねる				
あわす	合わす	合す	かつ	かつ	且つ			
イ	いう	いう	言う	かつしよく	褐色	かつ色		
	いくぶん	いくぶん	幾分	かならず	必ず	必 <small>□</small> ず		
	いずれ	いずれ	何れ	かねる	兼ねる	兼る		
	いちじるしい	著しい	著 <small>□</small> しい	～から	〇〇から作る. △△から再結晶 よりは使わない			
	いっかねん	一カ年	1箇年, 一ケ年	がらす	ガラス	硝子		
	いっそう	一層	いっそう	かわる	代わる	代る		
	いったん	一端	いったん	かわる	変わる	(代理・代人など) 変る(うつりかわ る, 変化)		
	いって	いって	行って	カ月	カ月	箇月		
	いる	いる	居る	10カ所	10カ所	10箇所, 10箇所		
	いる	入る		キ	きしゃく	希釈		
	いれる	入れる	入る	きめる	決める	決る		
	いわゆる	いわゆる	所請	きりあげ	切り上げ	切りあげ		
	ウ	うしなう	失う		きわめて	極めて	きわめて	
		うすい(物)	薄い	薄 <small>□</small> い	ク	くふう	工夫	くふう
うすい(色)		うすい		くらい(助詞)	くらい	位		
うすめる		→希釈する	薄める	くらべる	比べる	比る		
うちに		うちに	内に, 中に	くりかえす	繰り返す	繰返 <small>□</small> す		
うながす		促す	促 <small>□</small> す	くみあわせ	組合せ(名詞) 組み合わせ(動詞)			
うる		うる	得る(can or may) →える	ケ	けんたく	懸濁	けんたく	
うるおす	潤す	潤 <small>□</small> す	コ	こえる	超える	越える		
エ	えがく	描く	画く	こげる	焦げる	焦る		
	えらぶ	選ぶ		ここ	ここ	此処		
	える	得る	(get)→うる	こころみる	試みる	試る		
オ	おいて	おいて	於いて	こたえ	こたえ	答え(表中)		
	おおう	覆う	被う	こたえる	こたえる	応える		
	おおきい	大きい	大い	こと	こと	事*		
	おおむね	おおむね	概ね	ごと	ごと	毎		
	おこなう	行う	行 <small>□</small> う	ことなる	異なる	異なる		
	おこる	起こる	起る	ことに	殊に			
				この	この	此の		

分類	用 語	使 う 字	使わない字 備考	分類	用 語	使 う 字	使わない字 備考
コ	こまかい (洗い)こむ これ これら	細かい (洗い)込む これ これら	細い 之 此等, これ等	タ	たとえば ために	例えば ために	たとえば 為に
サ	さきに さける さげる さしこむ さしつかえない さまざま さら さらに	先に 避ける 下げる さし込む 差し支えない 様々 皿 更に	さきに 避る 下る 挿し込む(挿入) 差支えない さら	チ	ちいさい ちかづく ちようど ちよつと	小さい 近づく ちようど ちよつと	小さい 近づく, 近づく 丁度 一寸
シ	しかし しがたい しげき したがう したがって したのち(に) しばしば しぶい しまう しめす しめる しゃこう しやすい しゆうまつてん じゆうぶん しょうじる じょうりゆう じよじよに しらべる	しかし し難い 刺激 従う したがって(接続詞) 従って(動詞) した後(に) しばしば 渋い しまう 示す 湿る 遮光 しやすい 一→終点 充分, 十分 生じる 蒸溜 徐々に 調べる	然し, 併し, 而し 刺戟 したがう 屢々 しぶい 終う, 了う 湿める しゃ光 し易い, 仕易い 終末点 じゆうぶん 生ずる 蒸溜 調る	テ	ていする できる	呈する できる	出来る
ス	すくない ずつ すてる すでに すなわち すべて すみやかに	少ない ずつ 捨てる 既に すなわち すべて 速やかに	少い 宛 捨る すでに 即ち 総て, 凡て, 全て すみやかに	ト	とおり とき ときどき とくに どこ ところ ともせん ともなう ともに とりあつかい	とおり とき 時々 特に どこ ところ 共栓 伴う 共に 取扱い(名詞) 取り扱い(動詞)	通り 時* ときどき 何処 所* 共せん 伴 ^な う
セ	せん せんじよう	栓 洗淨	せん, セン 洗滌	ナ	ないし なお なかば ながら なづける など ならびに なるべく	ないし なお 半ば ながら 名付ける など 並びに なるべく	乃至 尚 中ば 乍ら 名づける 等 成べく, 成る可く
ソ	そう そうにゆう そこ その そのほか それぞれ	沿う 挿入 そこ その そのほか それぞれ	そう入 其処 其の 其の他 夫々	ニ	にかわじよう にごる にそう にゆうばち	にかわ状 濁る 二層 乳鉢	膠状 2層 乳ばち
タ	だいたい たいてい たえず たがいに たしかめる だす ただ ただし ただちに	大体 大抵 絶えず 互いに 確かめる だす ただ ただし 直ちに	だいたい たいてい 絶ず たがいに 確める 出す 唯, 只 但し 直に	ヌ	ぬぐう ぬらす	ぬぐう ぬらす	拭う 濡らす
				ネ	ねんちゆう	粘稠	
				ノ	のぞく のちに のべる のり	除く 後に 述べる のり	のちに 述る 糊
				ハ	はかり はかる はじめて はじめの はじめる	はかり 量る 初めて 初めの 始める	秤 測る, 計る→当用 漢字 初て

分類	用 語	使 う 字	使わない字 備考
ハ	はやい	速い	
ヒ	ひどしい ひとつ ひとつづつ	等しい 一つ 一つずつ	
フ	ふきん ふくざつ ふたたび ふりまぜる ふれる	付近 複雑 再び 振り混ぜる 触れる	附近 振り混ぜる 触る
ホ	ほか ほど ほとんど ほほ	ほか ほど ほとんど ほほ	他, 外 程 殆んど 略々, 略ぼ
マ	ますます まぜあわせ まぜる また または まだ まったく まで まま	ますます 混合せ(名詞) 混ぜ合せ(動詞) 混ぜる また また まだ 全く まで まま	益々 混る 又, 亦, 復 未だ 迄 俣
ミ	みたす みとめる みなす	満たす 認める みなす	満す, 充たす 認る 見なす, 見做す
ム	むしろ むずかしい むずぶ	むしろ 難しい 結ぶ	寧ろ 六ヶ数しい 結 <small>す</small> ぶ
メ	めづらしい	珍しい	珍しい
モ	もうしこみ もえる もし もしくは もちいる もちろん もって もつとも もつぱら もどす もとに もとづく もの もる	申し込み (申込み, 申込) 燃える もし 若しくは 用いる もちろん もって 最も 専ら 戻す(もどす) 下に 基づく もの 漏る	 燃る 若し 用る 勿論 以て もつぱら 許に 基く 物*, 者*
ヤ	やすい やはり やむをえず やや やわらかい	やすい やはり やむを得ず やや 柔 <small>ら</small> かい	易い 矢張り 止むを得ず 稍々 柔い, 軟かい
ユ	ゆえ ゆく	ゆえ 行く	故

分類	用 語	使 う 字	使わない字 備考
ヨ	よい よいいに ようす ようだ(に) ようやく ようゆう よほど よる より	よい 容易に 様子 ようだ(に) ようやく 一融解 よほど よる 比較するとき用いる。 例:○○より△△が大きい	好い, 良い ようす 様だ(に) 漸く 熔融 余程 依る, 因る
ラ	ら	ら	等
リ	りゅうぶん りんぱ	留分 リンパ	溜分 淋巴, りんぱ
ロ	ろう ろうと ろかする	ろう 漏斗 ろ過する	蠟(正名はロウ)
ワ	わかる わかる わずかに わたって	わかる 分ける わずかに わたって	分る, 判る, 解る 分る 僅かに 互って

国立医薬品食品衛生研究所報告記載の手引き(単位, 記号, 略号)

1. SI基本単位の名称と記号

量	単位の名称	単位記号	量	単位の名称	単位記号
長さ	メートル	m	熱力学温度	ケルビン	K
質量	キログラム	kg	物質質量	モル	mol
時間	秒	s	光度	カンデラ	cd
電流	アンペア	A			

従来用いられてきた重量はほぼ質量に置き換えられるが、当面は用語を併用できる。

2. SI接頭語

SI単位の10の整数乗倍を表すために、SI接頭語が使われる。それらの名称と記号は次のとおりである。

倍数	接頭語	記号	倍数	接頭語	記号
10	デカ (deca)	da	10 ⁻¹	デン (deci)	d
10 ²	ヘクト (hecto)	h	10 ⁻²	センチ (centi)	c
10 ³	キロ (kilo)	k	10 ⁻³	ミリ (milli)	m
10 ⁶	メガ (mega)	M	10 ⁻⁶	マイクロ (micro)	μ
10 ⁹	ギガ (giga)	G	10 ⁻⁹	ナノ (nano)	n
10 ¹²	テラ (tera)	T	10 ⁻¹²	ピコ (pico)	p
10 ¹⁵	ペタ (peta)	P	10 ⁻¹⁵	フェムト (femto)	f
10 ¹⁸	エクサ (exa)	E	10 ⁻¹⁸	アト (atto)	a

例えば、長さの単位mの10³倍はkm、10⁻²倍はcm、10⁻³倍はmm、10⁻⁶倍はμm、10⁻⁹倍はnmとなる。ただし、質量の単位の整数乗倍は、グラムに接頭語をつけて表示する。例えば、mgはμkgと記さない。

3. 特別の名称と記号を持つSI組立単位の例

量	単位の名称	単位の記号	量	単位の名称	単位の記号
周波数	ヘルツ	Hz	電気抵抗	オーム	Ω
力	ニュートン	N	コンダクタンス	ジーメンズ	S
圧力	パスカル	Pa	磁束	ウェーバ	W
エネルギー、仕事、熱量	ジュール	J	磁束密度	テスラ	T
仕事率、電力	ワット	W	インダクタンス	ヘンリー	H
電荷	クーロン	C	セルシウス温度	セルシウス度	°C
電位	ボルト	V	平面角	ラジアン	rad
静電容量	ファラド	F	立体角	ステラジアン	sr
照度	ルクス	lx	光束	ルーメン	lm
吸収線量	グレイ	Gy	放射能線量当量	ベクレル	Bq
				シーベルト	Sv

4. SIと併用されるSI以外の単位の例

量	単位の名称	単位の記号	量	単位の名称	単位の記号
時間	分	min	質量	トン	t
	時	h	圧力	バール	bar
	日	d	エネルギー	電子ボルト	eV
体積	リットル	l, L	平面角	度	°

また、圧力はSI単位ではパスカルであるが、血圧等の体内圧力に関しては混乱を避けるため、mmHgを使用できる。

5. その他よく用いられる量と単位記号の例

面積	m^2, cm^2	体積	m^3, cm^3, l, ml	速さ	m/s
加速度	m/s^2	波数	cm^{-1}	密度	$kg/m^3, g/cm^3, g/ml$
電流密度	A/m^2	磁場の強さ	A/m	モル濃度	mol/l
輝度	cd/m^2	粘度	Pa·s	動粘度	m^2/s
質量百分率	%	質量百万分率	ppm	質量十億分率	ppb
体積百分率	vol%	湿度百分率	%	回転速度	r/s
エンドキシン単位	EU				

6. よく用いられる記号, 略号

融点	mp	ミハエリス定数	<i>K_m</i>	標準偏差値	S.D.
分解点	mp(dec.)	Rf値	<i>R_f</i>	標準誤差	S.E.
沸点	bp	保持時間	<i>t_r</i>	紫外吸収	UV
凝固点	fp	50%致死量	LD ₅₀	赤外吸収	IR
比重	<i>d</i>	50%有効量	ED ₅₀	核磁気共鳴	NMR
屈折率	<i>n</i>	経口投与	p.o.	電子スピン共鳴	ESR
施光度	α	静脈投与	i.v.	施光分散	ORD
吸光度	<i>A</i>	腹腔投与	i.p.	円偏光二色性	CD
水素イオン指数	pH	皮下投与	s.c.	マスペクトル	MS
pK値	p <i>K</i>	筋肉投与	i.m.		

平成14年度図書委員

早川 堯夫 森川 馨 *安藤 正典 *阿曾 幸男
川崎 ナナ 江崎 勝司 *佐藤 陽治 *五十嵐 良明
内野 正 *村山 三徳 *山崎 壮 春日 文子
宮原 美知子 *福原 潔 *斎藤 善朗 *佐井 君江
関澤 純 高橋 登 関田 清司 *小泉 修一
*梅村 隆志 *山田 雅巳 鎌田 栄一 笠木 直一郎
*斎藤 博幸 渊野 裕之 *矢澤 達哉

(*印は編集委員)

国立医薬品食品衛生研究所報告 第120号

平成14年10月23日 印刷

平成14年10月30日 発行

発行所 国立医薬品食品衛生研究所化学物質情報部
東京都世田谷区上用賀1丁目18番1号

印刷所 ショウワドウ・イープレス株式会社

- Copyright, 2001 by National Institute of Health Sciences, 18-1, Kamiyoga 1 Chome, Setagayaku-ku, Tokyo, Japan
- 本誌に掲載された論文等の著作権は、当研究所に帰属するものとする。